奈良県のスポーツに関する“これまで”と“これから”

奈良県のスポーツの歴史

1965～ 1970～ 1975～ 1980～ 1985～ 1990～ 1995～ 2000～ 2005～ 2010～ 2015～ 2020～ 2025～ 2030～ 2035～

スポーツ少年団発足（1964）

健民運動場を県独自予算で36市町村に整備（1967～1972）

これ以前のトピック

1910～1988
県が奈良公園に春日野運動場整備
プロ野球の試合も開催

1926～1959
吉野鉄道が「女子体育の振興」を図り、美吉野運動競技場を整備
全日本女子オリンピック等開催

1940
紀元2600年を記念し、橿原運動場建設

1946
第1回近畿国体開催
（相撲、自転車競技：橿原競技場）

1954
第9回国体夏季大会開催
天皇杯皇后杯獲得
（水泳：天理プール、水球：郡山高校）

わかくさ国体（1984）

置県100周年ﾊｰﾌﾏﾗｿﾝ（1988）

スポレクなら’95（1995）

FIFAワールドカップ2002日韓大会
チュニジア選手団キャンプ入れ（橿原公苑等）

総合型地域スポーツクラブ設立（2003）

奈良県スポーツ支援センター設立（2004）

第1回奈良マラソン（2010）

第1回市町村対抗こども駅伝（2006）

2009近畿まほろば総体

バンビシャス奈良 Bjリーグ参入（2013）

奈良クラブ JFL入会（2014）

ｼﾞｪｲﾃｸﾄｽﾃｨﾝｸﾞｽ 橿原市ｻﾌﾞﾎｰﾑﾀｳﾝ（2016）

2巡目国民ｽﾎﾟｰﾂ大会・全国障害者ｽﾎﾟｰﾂ大会（2031）

目指すべき大会の姿と、大会後のスポーツ振興のあり方について検討

様々な課題に対応し、持続的な奈良県のスポーツ振興を実現

（仮称）奈良県ｽﾎﾟｰﾂ振興条例

（仮称）奈良県ｽﾎﾟｰﾂ振興ﾋﾞｼﾞｮﾝ

・スポーツを通じた健康増進
・スポーツを通じた人づくり
・スポーツ環境の整備と地域活性化
など

主要スポーツ施設の整備

優れた指導者の育成

スポーツの振興、青少年の健全育成、県民の健康増進

公共スポーツ施設の老朽化、機能の陳腐化

指導者、競技人口の減

この10年の主な指標

○運動実施率（30分以上、2回/週以上） 35%（H23）→50%（R1）
○総合型スポーツクラブ育成率 41%（H22） → 100%（H29）（全39市町村で設立ずみ）
○プロスポーツの有料試合数 5試合（H24） → 51試合（H28）

取り巻く環境

1965～ 1970～ 1975～ 1980～ 1985～ 1990～ 1995～ 2000～ 2005～ 2010～ 2015～ 2020～ 2025～ 2030～ 2035～

社会体育、生涯スポーツの曙

東京ｵﾘﾝﾋﾟｯｸ・ﾊﾟﾗﾘﾝﾋﾟｯｸ（1964）

ママさんバレー、スポーツクラブ
体操ジュニアクラブ等全国展開

札幌ｵﾘﾝﾋﾟｯｸ（1972）

企業（ノンプロ）スポーツ隆盛

サッカー日本リーグ 発足
（バレー、バスケ、バド等も追随）

全国身体障害者ｽﾎﾟｰﾂ大会（1965～）、全国知的障害者ｽﾎﾟｰﾂ大会（1992～）

高度経済成長期

バブル崩壊

総合型地域スポーツクラブ制度創設、民間ジムの市場拡大

Jリーグ開幕（1993）

長野ｵﾘﾝﾋﾟｯｸ（1998）

世界水泳選手権（2001）

FIFAワールドカップ（2002）

世界陸上競技選手権（2007）

ラグビーワールドカップ2019

プロスポーツの誕生、スポーツビジネス活性化

Vリーグにプロチーム誕生（1998）、
bjリーグ発足（2005）、Tリーグ発足（2018）

全国障害者ｽﾎﾟｰﾂ大会（2001～）

スポーツ庁創設（2015）

阪神・淡路大震災（1995）

東日本大震災（2011）

東京ｵﾘﾝﾋﾟｯｸ・ﾊﾟﾗﾘﾝﾋﾟｯｸ（2021）

ﾜｰﾙﾄﾞﾏｽﾀｰｽﾞｹﾞｰﾑｽﾞ2021関西（2022）

競技団体のコンプライアンス
アスリートのセカンドキャリア
新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽ感染症蔓延

（2024～）
国民体育大会から国民スポーツ大会へ

アンチドーピング
男女共同参画
バリアフリー社会

少子高齢化
人口減少
スポーツ種目等の多様化